(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-176793
(P2017-176793A)
(43)公開日　平成29年10月5日(2017.10.5)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
A47L 13/144 (2006.01)	A47L 13/144	3B074

審査請求 有　請求項の数 3　書面　（全 14 頁）

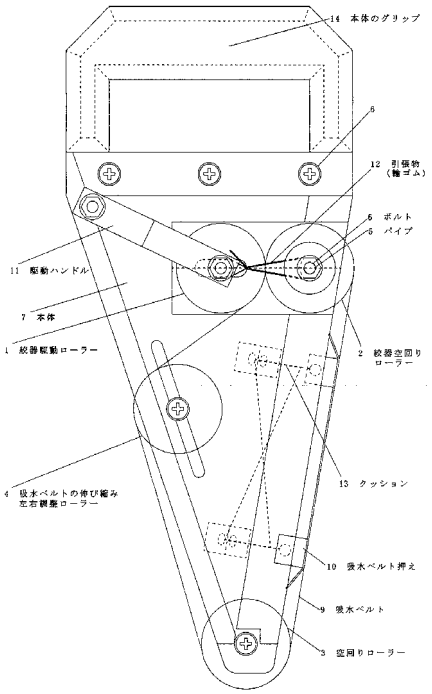
(21)出願番号　特願2016-81517(P2016-81517)
(22)出願日　平成28年3月28日(2016.3.28)

(71)出願人　594207872
水谷　貞男
熊本県熊本市中央区出水３丁目５－４０－１０２ベル出水
(72)発明者　水谷　貞男
熊本県熊本市中央区出水３丁目５－４０－１０２ベル出水

Fターム(参考)　3B074 AB01

(54)【発明の名称】絞器付吸水ベルト

(57)【要約】
【課題】従来は、雑巾で洗面台の水滴を拭き、飯台は布巾で拭くが、抗菌洗剤で手が荒れたり、拭くたびに水で洗い手が濡れる、何回も、何回も水に濡れると言う問題点があった。
【解決手段】本体の、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーに、吸水ベルトを、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーに、挟み、絞る、吸水ベルトを、空回りローラーに、通して、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーと、本体の両、外側に、引張物を取付け挟み圧が調整出来る、空回りローラーを、吸水ベルトが、円滑に回る様に、吸水ベルトの左右ずれ調整と、伸び縮み調整が出来る。
【選択図】図1



【特許請求の範囲】
【請求項１】
４個のロールに少し山が出来る位にゴムを巻き、吸水ベルトの接地面に吸水ベルト押えを介してクッションを設ける、本体の開閉出来る方を開け、絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーに吸水ベルトを挟み、本体の片方をはめ込み締める、絞器駆動ローラーの駆動ハンドルを回し吸水ベルトの吸水した水滴を絞る、グリップを片手で持って、水滴を吸水ベルトで吸水する、水滴を吸水しながらふき取る、絞器を回しながら水道の水を流して洗い絞る、除菌の洗剤を１．２滴落し給水ベルトと軸全体に染み込ませ絞って壁に掛ける、特徴のある、絞器付吸水ベルト。
【請求項２】
絞器吸水ベルトの、本体の開閉できる方を開け、ボルト、パイプを軸に絞器駆動ローラと絞器空回りローラーに、吸水率の高い吸水ベルトを挟み本体の片方をはめ込み締める、絞器駆動ローラーのハンドルを回し、吸水ベルトの吸い込んだ水滴を絞る、請求項１に記載の絞器付吸水ベルト。
【発明の詳細な説明】
【発明の詳細な説明】

【技術分野】
【０００１】
洗面台の水滴を雑巾で毎回ふき取る、使うたびにふき取る、又飯台を布巾で拭きとっていた、本発明は、洗面台の水滴を取り拭く、又飯台も拭く、除菌もする、絞器付吸水ベルトの製造方法に関する。
【背景技術】
【０００２】
　従来は、布巾、雑巾、タオル等で拭いていた。
（例えば、絞器　実開昭６１－０９９５３７）歯磨き中部を根元部から引き込みながら当該中部の前後面を上下からのローラーで押圧することで内容物を絞り出すよう構成した事を特徴とする歯磨き絞器。
（例えば、布巾　特開２０１４－１５９８９８）布巾などの布製品を巻き付けるための複数の回転部材を有し、該回転部材は、長さ方向に並べられ、長さ方向に延びる回転軸線を中心にそれぞれ独立して回転可能であることを特徴とする布巾などの布製品を絞るための絞る補助具。
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
従来は、雑巾で洗面台の水滴を拭き、飯台は布巾で拭くが抗菌洗剤で手が荒れたり拭くたびに水で洗う、何回も何回も水に濡れると言う問題点があった。
【０００４】
本発明は、布巾で手を濡らさず絞器付吸水ベルトに水道で洗いながら絞り、抗菌洗剤を潤滑油に抗菌洗剤を吸水ベルトに染み込ませ絞る、洗面台の水滴、飯台を拭く、吸水ベルトが汚れたら、桶に入れた水にキッチンハイターを入れ、絞器付吸水ベルトを、本体ごと全部キッチンハイターで薄めた水の中に沈めて除菌と漂白にする製造方法を提供する。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
４個のロールにゴムを巻き、本体に各ローラーの軸にボルトとパイプを設け、絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーに吸水ベルトを挟み、本体の片方をはめ込み締める、絞器駆動ローラーの駆動ハンドルを回し、水滴を拭いた吸水ベルトの水を水道を流しながら洗い絞る、絞圧はゴムで調整する、吸水ベルトを回転させると最初は左右にずれるので、吸水ベルトの伸び縮み左右調整ローラーで調整する、吸水ベルトの接地面に吸水ベルト押えを介してクッションを設ける、側板を組立、ボルトと蝶ネジで絞める、グリップを片手で持って水分を吸水ベルトで吸水する水分を吸水して絞器で絞る、潤滑油は抗菌洗剤、吸水ベ

ルトに抗菌洗剤を染み込ませる、吸水ベルトが汚れたら、キッチンハイターで薄めた水の桶に全体を沈める、除菌と漂白にする。

【発明を実施するための形態】

【０００６】

発明の実施の形態を、実施例にもとづき図面を参照して説明する、

図の（１．２．３．４）のロールにゴムを巻き、各ローラーの軸にボルトとパイプを設け、本体に（１）の絞器駆動ローラーと（２）絞器空回りローラーに吸水ベルトを挟み、本体の片方をはめ込み締める、（１）の絞器駆動ローラーの（１１）の駆動ハンドルを回し、吸水ベルトの水を絞る絞圧はゴムで調整する、吸水ベルトを回転させると最初は左右にずれるので、（４）の吸水ベルトの伸び縮み左右調整ローラーで調整する、吸水ベルトの接地面に（１０）の吸水ベルト押えを設けて（１３）クッションを設ける、（１３）の本体のグリップを片手で持って、洗面台、飯台の水分を吸水ベルトで吸水する、水分を吸水して絞器の拭き面の方を上にして、水道を出しながら絞る、排水は絞器の下から出るので洗面台に流す、絞ったら除菌の洗剤を、吸水ベルトと摩擦する所に除菌の洗剤を潤滑油の代わりに落とす、除菌の洗剤を吸水ベルトに染み込ませ絞って、壁掛けに掛ける、絞った残りの水滴が落ちてもいい様に容器を置く、絞器付吸水ベルト。

【発明の効果】

【０００７】

本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載される様な効果を現す。

【０００８】

何回も、洗面台を濡れた雑巾を持ち、手で拭かなくてもよい、又布巾も同様である。

【０００９】

絞器駆動ローラーで、吸水ベルトを絞る、引張圧の調整が出来る。手を濡らさずに洗面台、飯台が拭ける。

【００１０】

図１の１．２．３．４のローラーの４の吸水ベルトの伸び縮み、吸水ベルトの左右調整で、吸水ベルトが円滑に回転する。

【００１１】

図１の１．２．３．４のローラーの軸に、吸水ベルトに抗菌洗剤を１．２滴落として染み込ませ潤滑油と抗菌に使える、駆動ローラーと空回りローラーの絞器圧を上げる物にも抗菌洗剤を潤滑油に使う。

【０００１２】

吸水ベルトは、吸水率の高い物。

【０００１３】

吸水ベルトが汚れたら、桶に入れた水にキッチンハイターをうすめ、絞器付吸水ベルトを全体沈める、抗菌と漂白が出来る。

【０００１４】

図１の１．２．３．４のローラーに、ローラーと吸水ベルトが滑らない様に、圧を吸収出来る様に各ローラーにゴムを巻く。

【図面の簡単な説明】

【図１】絞器駆動ローラー、絞器空回りローラー、吸水ベルトの伸び縮、左右調整ローラー、吸水ベルト、吸水ベルト押さえ、絞器の圧力調整のゴム、側面図。

【図２】絞器の圧力調整の引張物、側板の取外し可能なチョウネジ、側面図。

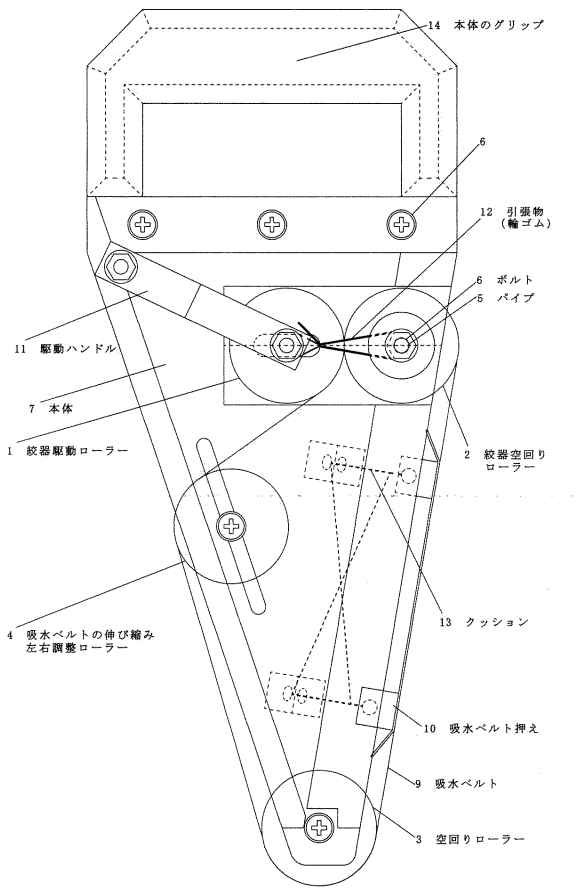
【図３】駆動ローラー、絞器の圧力調整の引張物、ハンドル、パイプ、ボルト（軸）拭き面から見た平面図。

【符号の説明】

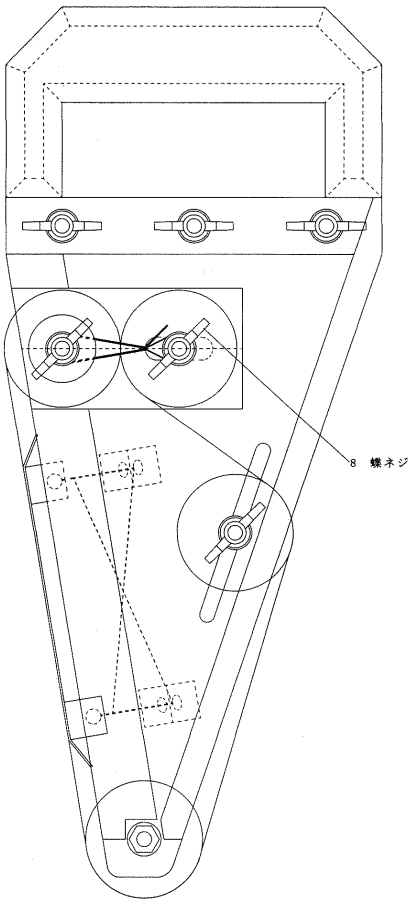
１　絞器駆動ローラー
２　絞器空回りローラー
３　空回りローラー
４　吸水ベルトの伸び縮み、左右調整ローラー

５　　パイプ
６　　ボルト、ナット、座金、ワッシャ
７　　本体
８　　チョウネジ
９　　吸水ベルト
１０　吸水ベルト押え、クッション
１１　駆動ハンドル
１２　引張物、ゴム
１３　クッション
１４　本体のグリップ

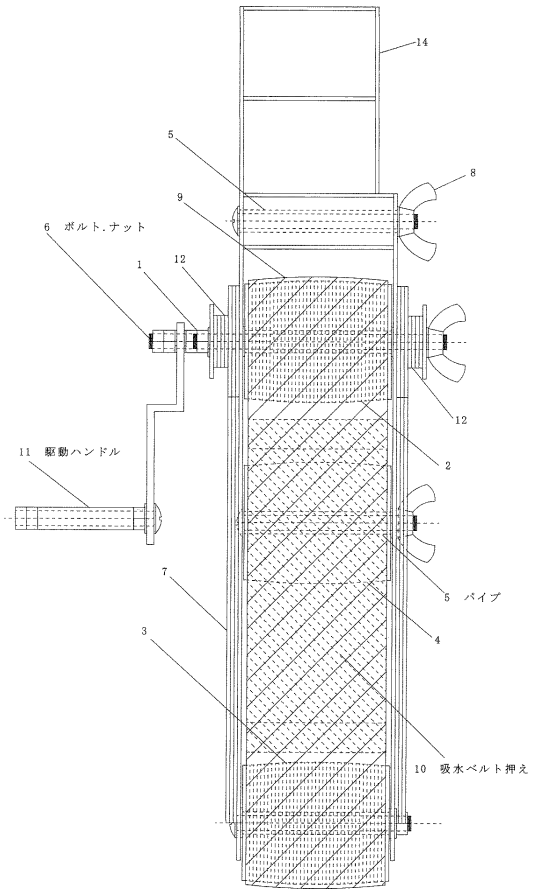
【図１】



【図２】



【図３】



【手続補正書】
【提出日】平成28年12月25日(2016.12.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
図1の不等辺三角形の両側の7の透明のアクリル板側板と、13のグリップの両側の側板と上下を、7の透明のアクリル板を使い、各ローラーの回転が見えるのと回転軸が見える様にする、抗菌洗剤（ジョイ）が1の駆動ローラーの軸と2の空回りローラーの軸と9の吸水ベルトに吸われるのが良くわかる、抗菌洗剤（ジョイ）は、1の駆動ローラー5.6の軸（5の透明abs丸パイプ、6の純ステンレスボルト、ナット）2の空回りローラーの5.6の軸（5の透明abs丸パイプ、6の純ステンレスボルト、ナット）の9の吸水ベルトに抗菌洗剤の一滴が他の空回りローラーに抗菌洗剤の潤滑油替わりに運ぶ、消耗品は、8の蝶ネジ部分が取り外し部分である、9の吸水ベルトの取り換え、各ローラーの輪ゴムの取り換え、パイプベアリング代わりの5の透明abs丸パイプの取り換えである、抗菌洗剤を使わないで水だけで回転させると、各5.6の軸が焼き切れるのと、9の吸水ベルトの抗菌が出来ないのである、抗菌洗剤（潤滑油替わり）と水を使わせる為の策である、駆動ローラーと各ローラーに輪ゴムを巻く、山が出来る位に巻く、山の意味は、9の吸水ベルトをスムーズに回す為、4の空回りローラーは、9の吸水ベルトのたるみ調整、9の吸水ベルトが左右に外れない為の左右調整ベルト、1の絞器駆動ローラーの11の駆動ハンドルは、純ステンレス手回し、9の吸水ベルトの10の透明の押当版はアクリル板、10の透明の押当版を、13の純ステンレス針金の２本をねじり弾力のあるバネにして支持する、1の駆動ローラーと2の空回りローラー

を12の引張物、輪ゴムで、1の駆動ローラーの6の純ステンレスボルト、ナットに、12の純ステンレス針金を2本をねじって、片方2本ずつ掛ける、それに12の輪ゴムを、引張強度が上がるまで何本も掛ける、洗面台の跳ね水を拭き取り、飯台を拭き取り、9の吸水ベルトが汚れたら、桶に水を入れ、キッチンハイターを混ぜて、絞器付吸水ベルトを、全体つけて除菌と漂白をする、壁に本体を掛ける、乾燥する、翌朝、絞器付吸水ベルトを布巾に使う時、水道の水で、吸水ベルトに吸わせて絞り、一滴づづの抗菌洗剤（ジョイ）を9の吸水ベルトと、1の駆動ローラーの軸と12の引張物の純ステンレスの２本ねじれ、6の純ステンレスボルトのナットに直に摩擦する部分に一滴づつ垂らす、1の駆動ローラーを回転させると、9の吸水ベルトが、他の空回りローラーに潤滑代わりの、抗菌洗剤を運ぶ、洗剤が絞れたら飯台、洗面台を拭き取る、拭き終わったら、水道の水を吸水ベルトに流し絞り洗う、抗菌洗剤を一滴づつ垂らして絞り、壁の専用フックに掛ける、翌日には乾燥してる、本体を中が見える透明の、不等辺三角形にして、４個のローラの、駆動ローラーと、空回りローラーの、間に吸水ベルトを挟み、水道の水を吸わせ、抗菌洗剤を垂らし、駆動ローラーと空回りローラーで絞り、飯台、洗面台を拭く、特徴の有る絞器付給水ベルト付布巾。

【請求項２】

図1の絞器吸水ベルトの本体を、

不等辺三角形にした為に10の押当板と拭き取る面に、13のグリップを右手で握り拭き面を拭くと、力が入りやすい、使いやすい、図1の7の透明のアクリル板を使い、各1.2のローラーの軸と9の吸水ベルトに抗菌洗剤が浸透するのが良くわかる、請求項1に記載の絞器付吸水ベルト付布巾。

【請求項３】

1の駆動ローラーと2の空回り各ローラーに輪ゴムを巻く、各輪ゴムを山形に巻く、輪ゴムの凹凸が有り良く絞る、抗菌洗剤も浸透しやすい、1の駆動ローラーと2の空回りローラーを12の引張物、輪ゴムで、1の駆動ローラーの6の純ステンレスボルト、ナットに12の純ステンレス針金を2本をねじって、片方2本ずつ直に掛ける、それに12の輪ゴムを、引張強度が上がるまで何本も掛ける、9の吸水ベルトが汚れたら、ローラーと輪ゴムと他全体を桶に水を入れ、キッチンハイターを混ぜて、図1の絞器付吸水ベルトを、全体つけて除菌と漂白をする、1日除菌したら、桶から絞器吸水ベルトを取り出し、水道の水を掛けて駆動ハンドルを回し洗う、壁に本体を掛ける、請求項1に記載の絞器付吸水ベルト付布巾。

【請求項４】

9の吸水ベルトは、繊維、綿の生地を数枚重ねたもの吸水率が上がる、請求項1に記載の絞器付吸水ベルト付布巾。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、絞器が付いて、吸水ベルトが付いて、手を濡らさずに、吸水ベルトに水を浸し、抗菌洗剤を数滴落として使える、絞器付吸水ベルト付布巾に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来の絞器付吸水ベルト付布巾は一般にはない、業務用は、重たいのがある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開2001－301389号公報

【非特許文献】
【０００４】
【非特許文献２】特開昭48－55565号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
従来の清掃具は、業務用なので、家庭用には不向きである、家庭用を考案し解決する為の課題である。
【０００６】
絞器付吸水ベルト付布巾は、手を濡らさずに絞り、抗菌材を垂らし、飯台や、洗面台を拭く、水道の水で洗う、吸水ベルトが汚れたら、水に溶かしたキッチンハイターに全体をつける。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
アクリル板で、不等辺三角形を型取り、グリップも加え、不等辺三角形の部分にローラーに輪ゴムを巻いたものを４個付ける、吸水ベルトを、綿の生地を数枚重ね吸水率を上げる、純ステンレスの手回しハンドルの付いた、駆動ローラーと空回りローラーの間を通し、駆動ローラーと空回りローラのアクリルの外の軸に輪ゴムで両方を引張、絞り圧を上げる。
【０００８】
不等辺三角形とグリップで力が入りやすくて、使い勝手が良い、駆動絞器が付いて、吸水ベルトに水道の水を浸し、抗菌洗剤を垂らし、絞り飯台や洗面台を拭く、仕上りが綺麗。
【０００９】
絞器付吸水ベルト付布巾は、水と抗菌洗剤を、必ず使う様にしてあり、使わなければ、軸、他、焼付いてしまう、　絞器付吸水ベルト付布巾は、桶に水を入れキッチンハイターを入れ、絞器付吸水ベルト付布巾の全体をつけられる。
【発明の効果】
【００１０】
不等辺三角形とグリップで力が入りやすくて、使い勝手が良い。
【００１１】
駆動絞器が付いて、吸水ベルトに水道の水を浸し、抗菌洗剤を垂らし、絞り飯台や洗面台を拭く、仕上りが綺麗。
【００１２】
全体の部品を、キッチンハイター入りの水に付けられる部品にした、絞器付吸水ベルト付布巾は、桶に水を入れキッチンハイターを入れ、絞器付吸水ベルト付布巾の全体をつけられる、消耗品の部品は取替られる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】図1は、不等辺３角形とグリップ、手回しハンドルの駆動ローラー、空回りローラー、吸水ベルト、押当板、押当板の純ステンレス針金バネ側面図
【図２】図2は、蝶ネジ側の側面図
【図３】図3は、押当板側の底板図
【発明を実施するための形態】
【００１４】
図1の不等辺三角形の両側の7の透明のアクリル板側板と、13のグリップの両側の側板と上下を、7の透明のアクリル板を使い、各ローラーの回転が見えるのと回転軸が見える様にする、抗菌洗剤（ジョイ）が1の駆動ローラーの軸と2の空回りローラーの軸と9の吸水ベルトに吸われるのが良くわかる、抗菌洗剤（ジョイ）は、1の駆動ローラー5.6の軸（5の透明abs丸パイプ、6の純ステンレスボルト、ナット）2の空回りローラーの5.6の軸（5

の透明abs丸パイプ、6の純ステンレスボルト、ナット）の9の吸水ベルトに抗菌洗剤の一滴が他の空回りローラーに抗菌洗剤の潤滑油替わりに運ぶ、消耗品は、8の蝶ネジ部分が取り外し部分である、9の吸水ベルトの取り換え、各ローラーの輪ゴムの取り換え、パイプベアリング代わりの5の透明abs丸パイプの取り換えである、抗菌洗剤を使わないで水だけで回転させると、各5.6の軸が焼き切れるのと、9の吸水ベルトの抗菌が出来ないのである、抗菌洗剤（潤滑油替わり）と水を使わせる為の策である、駆動ローラーと各ローラーに輪ゴムを巻く、山が出来る位に巻く、山の意味は、9の吸水ベルトをスムーズに回す為、4の空回りローラーは、9の吸水ベルトのたるみ調整、9の吸水ベルトが左右に外れない為の左右調整ベルト、1の絞器駆動ローラーの11の駆動ハンドルは、純ステンレス手回し、9の吸水ベルトの10の透明の押当版はアクリル板、10の透明の押当版を、13の純ステンレス針金の２本をねじり弾力のあるバネにして支持する、1の駆動ローラーと2の空回りローラーを12の引張物、輪ゴムで、1の駆動ローラーの6の純ステンレスボルト、ナットに、12の純ステンレス針金を2本をねじって、片方2本ずつ掛ける、それに12の輪ゴムを、引張強度が上がるまで何本も掛ける、洗面台の跳ね水を拭き取り、飯台を拭き取り、9の吸水ベルトが汚れたら、桶に水を入れ、キッチンハイターを混ぜて、絞器付吸水ベルトを、全体つけて除菌と漂白をする、壁に本体を掛ける、乾燥する、翌朝、絞器付吸水ベルトを布巾に使う時、水道の水で、吸水ベルトに吸わせて絞り、一滴づづの抗菌洗剤（ジョイ）を9の吸水ベルトと、1の駆動ローラーの軸と12の引張物の純ステンレスの２本ねじれ、6の純ステンレスボルトのナットに直に摩擦する部分に一滴づつ垂らす、1の駆動ローラーを回転させると、9の吸水ベルトが、他の空回りローラーに潤滑代わりの、抗菌洗剤を運ぶ、洗剤が絞れたら飯台、洗面台を拭き取る、拭き終わったら、水道の水を吸水ベルトに流し絞り洗う、抗菌洗剤を一滴づつ垂らして絞り、壁の専用フックに掛ける、翌日には乾燥してる、特徴の有る絞器付給水ベルト付布巾。

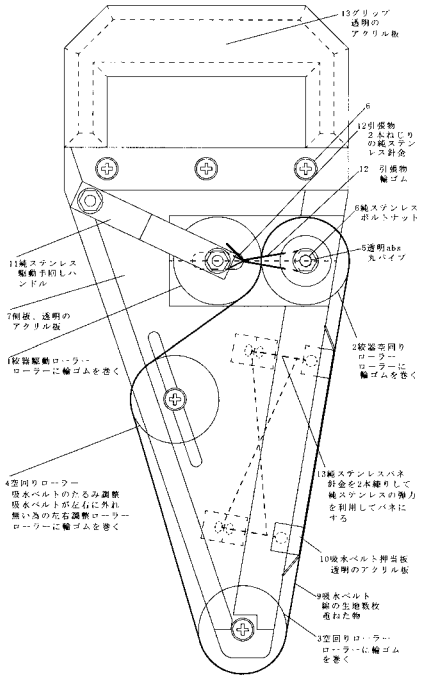
【符号の説明】

【００１５】

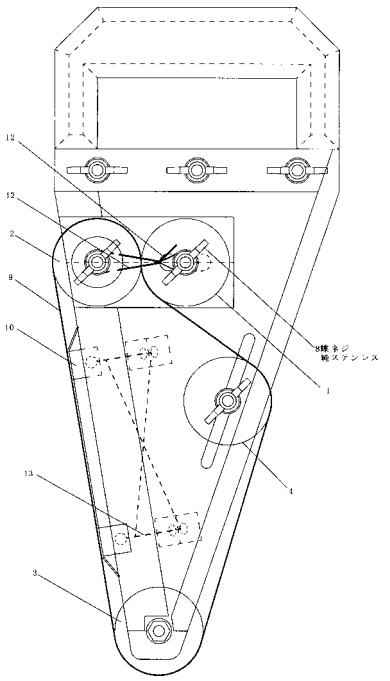
1　絞り器駆動ローラー、ローラーに輪ゴムを巻く
2　絞器空回りローラー、ローラーに輪ゴムを巻く
3　空回りローラー、ローラーに輪ゴムを巻く
4　空回りローラー、吸水ベルトのたるみ調整、吸水ベルトが左右に外れない為の左右調整ローラー、ローラーに輪ゴムを巻く
5　透明abs丸パイプ、
6　純ステンレスボルト、ナット
7　側板透明のアクリル板、4方アクリル板
8　蝶ネジ、純ステンレス
9　吸水ベルト、綿の生地数枚重ねた物
10　吸水ベルト、押当板、透明のアクリル板
11　純ステンレス、駆動手回しハンドル
12　引張物、２本ねじりの純ステンレス針金、12引張物、輪ゴム
13　グリップ、透明のアクリル板
14　各ローラーに、輪ゴムを山形に巻く

【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】全図
【補正方法】変更
【補正の内容】

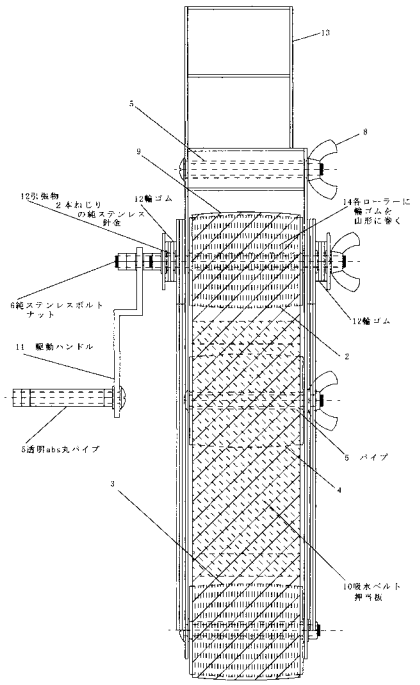
【図１】


13グリップ
透明の
アクリル板
12引張物
2本ねじり
の純ステン
レス針金
12 引張物
輪ゴム
6純ステンレス
ボルトナット
5透明abs
丸パイプ
11純ステンレス
駆動手廻しハ
ンドル
7側板 透明の
アクリル板
1被当駆動ローラー
ローラーに輪ゴムを巻く
2被当帯回り
ローラー
ローラーに
輪ゴムを巻く
4空回りローラー
吸水ベルトのたるみ調整
吸水ベルトが左右に外れ
無い為の左右調整ローラー
ローラーに輪ゴムを巻く
13純ステンレスバネ
針金を2本縒りして
純ステンレスの弾力
を利用してバネに
する
10吸水ベルト押当板
透明のアクリル板
9吸水ベルト
細の生地数枚
重ねた物
3空回りローラー
ローラーに輪ゴム
を巻く

【図２】


12
12
2
9
10
8蝶ネジ
純ステンレス
1
13
4
3

【図３】


13
5
8
9
12引張物
2本ねじり
の純ステンレス
針金
12輪ゴム
14各ローラーに
輪ゴムを
山形に巻く
6純ステンレスボルト
ナット
12輪ゴム
11 駆動ハンドル
2
5透明abs丸パイプ
5 パイプ
4
3
10吸水ベルト
押当板

【手続補正書】
【提出日】平成29年6月13日(2017.6.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
図1の7の本体に、同じ部材の複数のロールを取付けられたロールと、前記7の本体に図1の1の絞器駆動ローラーと図1の2の絞器空回りローラーとで絞ることと、図1の3と4の空回りローラーを取付けたことと、前記図1の1の絞器駆動ローラーと、前記図1の2の絞器空回りローラーに、図1の9の吸水ベルトを挟み、図1の3と4の空回りローラーに通すことと、前記図1の4の空回りローラーで、吸水ベルトが、円滑に回る様に、吸水ベルトの伸び縮みと、ベルトの左右ずれの調整が出来ることと、前記図の1の1の絞器駆動ローラーと、前記図1の2の絞器空回りローラーに、図1の7の本体の両、外側に図1の12の引張物をした、挟み圧が調整出来ることと、前記図1の7の本体に、図1の10の押当板を拭き取り面に取付けて、前記図の1の1に絞器駆動ローラーの、図1の11の駆動ハンドルを回し、図1の9の吸水ベルトの吸水した水滴を、図1の1の絞器駆動ローラーで絞ることと、水道の水を9の吸水ベルトに流しながら洗い絞ることと、絞った9の吸水ベルトに抗菌洗剤を1.2滴落し、抗菌洗剤を潤滑油替わりに使い、軸全体に染み込ませ絞って、飯台等を拭き取る、この繰り返しで拭き取りが終わったら、吸水ベルトを水道水で洗い、抗菌洗剤を1.2滴落し、絞り、壁の金具に掛けて乾かすことと、図1の9の吸水ベルトが汚れたら、図1の7の本体、全体を、桶の水に溶かしたキッチンハイターに沈めてつけることと、吸水ベルトが汚れて取替える時は、蝶ネジ側の側板が、蝶ネジをゆるめて外せることを、特徴とする絞器付吸水ベルト。
【請求項２】
前記図1の7の本体の、図1の1の絞器駆動ローラーと、前記図1の2の絞器空回りローラーを備え、前記図1の9の吸水ベルトを、前記図1の1の絞器駆動ローラーと、前記図1の2の絞器空回りローラーに、挟み、絞るとともに、前記9の吸水ベルトを、前記図1の3と4の空回りローラーに、通すとともに前記図1の1の絞器駆動ローラーと、前記図1の2の絞器空回りローラーと、前記図1の7の本体の両、外側に、前記図1の12の引張物を取付け挟み圧が調整出来ることと、図1の4の空回りローラーを、9の吸水ベルトが、円滑に回る様に、9の吸水ベルトの左右ずれ調整と、伸び縮み調整が出来ること、を特徴とする、請求項1に記載の絞器付吸水ベルト。
【請求項３】
図1の9の吸水ベルトに、水道水を流しながら洗い絞るとともに、絞った9の吸水ベルトに、抗菌洗剤を1.2滴落とし駆動ハンドルを回して、抗菌洗剤を潤滑油替わりに使い、軸全体に染込ませ絞って、飯台等を拭き取るとともに、この繰り返しで拭取りが終わったら、吸水ベルトを水道水で洗い、抗菌洗剤を1.2滴落し、絞り、壁の金具に掛けて乾かすことと、図1の9の吸水ベルトが汚れたら、図1の7の本体、全体を、水に溶かしたキッチンハイターに沈めることと、図1の9の吸水ベルトを、取替える時は、図1の7の本体の、蝶ネジを絞めてる、部分の側板が外れて、9の吸水ベルトと他の部材も取替えられること、を特徴とする、請求項1に記載の絞器付吸水ベルト。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】

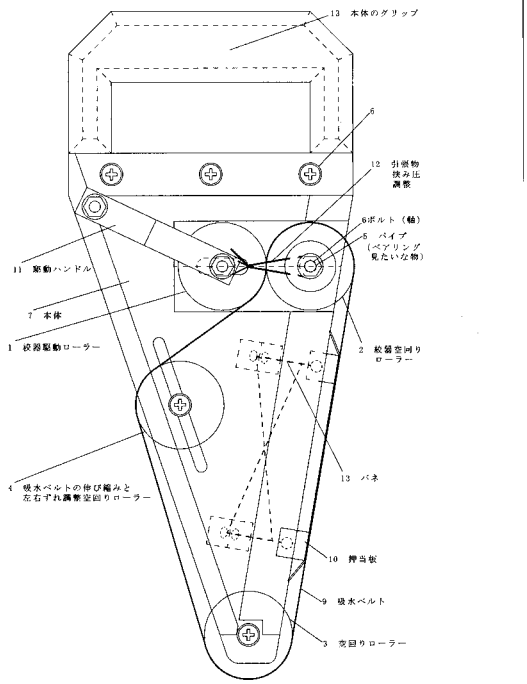
【技術分野】
【０００１】
洗面台の、水滴を雑巾で毎回拭き取る、又飯台を、布巾で毎回拭き取っていた、毎回抗菌洗剤に手が濡れる、本発明は、本体に絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーを取付け、絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーに、吸水ベルトを挟み込み、吸水ベルトを、絞り器駆動ローラーの駆動ハンドルで回し、複数のローラーで送る、吸水ベルトを回しながら、水道水を吸水ベルトに流し、絞って、抗菌洗剤を吸水ベルトと軸に1.2滴落とし、絞って、飯台や、洗面台を拭きとる、絞器付吸水ベルトに関するものである
【背景技術】
【０００２】
従来は、飯台、洗面台等は、布巾又は、雑巾で拭いていた。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開2014－159898
【非特許文献】
【０００４】
【非特許文献２】実解昭61－099537
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
従来は、雑巾で洗面台の水滴を拭き、飯台は、布巾で拭くが、抗菌洗剤で手が荒たり、拭くたびに水で洗い手が濡れる、何回も、何回も水に濡れると言う問題点があった。
【０００６】
本発明は、本体に絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーを取付け、絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーに、吸水ベルトを挟み込み、吸水ベルトを、絞り器駆動ローラーの駆動ハンドルで回し、複数のローラーで送る、吸水ベルトを回しながら、水道水を吸水ベルトに流し、絞って、抗菌洗剤を吸水ベルトと軸に1.2滴落とし、絞って、飯台や、洗面台を拭きとる、本体、全体を、桶の水に溶かしたキッチンハイターに沈めてつける。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本体の、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーに、吸水ベルトを、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーに、挟み、絞る、吸水ベルトを、空回りローラーに、通して、絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーと、本体の両、外側に、引張物を取付け挟み圧が調整出来る、空回りローラーを、吸水ベルトが、円滑に回る様に、吸水ベルトの左右ずれ調整と、伸び縮み調整が出来る。
【０００８】
水道の水を、吸水ベルトに流しながら洗い絞る、絞った、吸水ベルトに抗菌洗剤を1.2滴落し、抗菌洗剤を潤滑油替わりに使い、軸全体に染み込ませ絞って、飯台等を拭き取る、この繰り返しで拭き取りが終わったら、吸水ベルトを水道水で洗い、抗菌洗剤を1.2滴落し、絞り、壁の金具に掛けて乾かす。
【０００９】
吸水ベルトが汚れたら、本体、全体を、桶の水に溶かしたキッチンハイターに沈めてつける。
【００１０】
吸水ベルトが汚れて取替える時は、蝶ネジ側の側板が、蝶ネジをゆるめて外せる。
【発明の効果】
【００１１】
洗面台を拭くのに、何回も濡らした雑巾、又は布巾を使い、絞器吸水ベルトで拭くと、濡らした雑巾、又は布巾等を手で拭かなくても良い。

【００１２】
絞器駆動ローラーと、絞器空回りローラーで、吸水ベルトを挟み絞る、吸水ベルトが調度いい濡れ具合に成り、手を濡らさずに、洗面台、飯台等が拭ける。図1の同じ部材のローラーの、4の空回りローラーが、吸水ベルトの伸び縮み調整と、吸水ベルトの左右ずれ調整で、吸水ベルトが円滑に回る。
【００１３】
絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーに、吸水ベルトを挟み絞る、吸水ベルトに抗菌洗剤を1.2滴落として染込ませる、絞器駆動ローラーと絞器空回りローラーの、軸、摩擦面に抗菌洗剤を潤滑油替わりに使う、駆動ハンドルを回して絞り使う。
【００１４】
吸水ベルトは、吸水率の高い物。
【００１５】
吸水ベルトが汚れたら、桶に入れた水にキッチンハイターをうすめ、絞器付吸水ベルトを、全体沈める、抗菌と漂白が出来る。
【図面の簡単な説明】
【００１６】
【図１】図1の1の絞器駆動ローラーと2の絞器空回りローラーに、9の吸水ベルトを挟み、3空回りローラーを通り、4の空回りローラーの吸水ベルトの伸び縮み調整と、吸水ベルトの左右ずれ調整ローラー、駆動ハンドルを回し、絞り、拭く。7の本体は、拭きやすさと、拭く時の力の入り具合で不等辺三角形にする、側面図。
【図２】図2の1の絞器駆動ローラーと、2の絞器空回りローラーに、9の吸水ベルトを挟み、12の挟み圧調整の引張物。8の蝶ネジ部分の、側板が外せる、不等辺三角形の部分、側面図。
【図３】図3の1の絞器駆動ローラーと駆動ハンドル、蝶ネジ部分の側板が外せる、拭き面から見た平面図。
【発明を実施するための形態】
【００１７】
図1の7の本体に、同じ部材の複数のロールを取付けたロールと、7の本体に図1の1の絞器駆動ローラーと図1の2の絞器空回りローラーとで絞る、図1の3と4の空回りローラーを取付ける、図1の1の絞器駆動ローラーと、図1の2の絞器空回りローラーに、図1の9の吸水ベルトを挟み、図1の3と4の空回りローラーに通す、図1の4の空回りローラーで、吸水ベルトが、円滑に回る様に、吸水ベルトの伸び縮みと、ベルトの左右ずれの調整が出来る様にする。
【００１８】
図の1の1の絞器駆動ローラーと、図1の2の絞器空回りローラーに、図1の7の本体の両、外側に図1の12の引張物をして、挟み圧が調整出来る様に、図1の7の本体に、図1の10の押当板を拭き取り面に取付けて、図の1の1に絞器駆動ローラーの、図1の11の駆動ハンドルを回し、図1の9の吸水ベルトの吸水した水滴を、図1の1の絞器駆動ローラーで絞る、水道の水を9の吸水ベルトに流しながら洗い絞る、絞った9の吸水ベルトに抗菌洗剤を1.2滴落し、抗菌洗剤を潤滑油替わりに使い、軸全体に染み込ませ絞って、飯台等を拭き取る、この繰り返しで拭き取りが終わったら、吸水ベルトを水道水で洗い、抗菌洗剤を1.2滴落し、絞り、壁の金具に掛けて乾かす。
【００１９】
図1の9の吸水ベルトが汚れたら、図1の7の本体、全体を、桶の水に溶かしたキッチンハイターに沈めてつける、絞器吸水ベルトは、本体全体を水に沈め付ける為、構造物はさびない物を使う、ベアリング等から油が漏れない物を使う、吸水ベルトが汚れて取替える時は、蝶ネジ側の側板が、蝶ネジをゆるめて外せる、本発明は、以上の様な構造で成り立つ、絞器付吸水ベルトである。
【符号の説明】
【００２０】

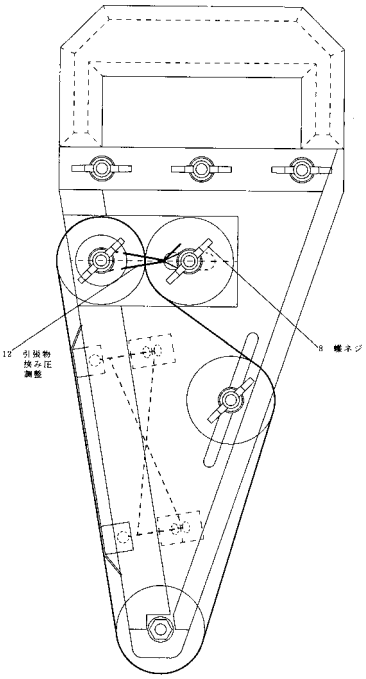
1　絞器駆動ローラー
2　絞器空回りローラー
3　空回りローラー
4　吸水ベルトの伸び縮み調整、吸水ベルトの左右ずれ調整
5　パイプ、ベアリング見たいな物
6　ボルト　（軸）
7　本体（7の本体の蝶ネジ部分の側板が外せる）
8　蝶ネジ
9　吸水ベルト
10　吸水ベルト押当板
11　駆動ハンドル
12　引張物
13　バネ
14　14の7の本体のグリップ

【手続補正４】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】全図
【補正方法】変更
【補正の内容】

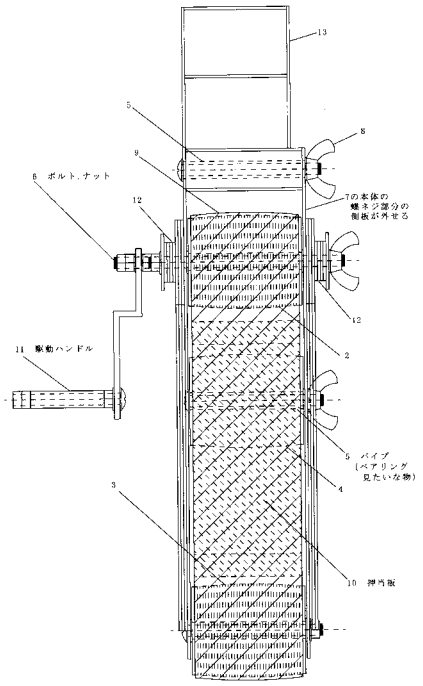
【図１】



【図２】



【図３】


13
5
8
9
6 ボルト,ナット
7の本体の
螺ネジ部分の
側板は外せる
12
12
2
11 振動ハンドル
5 パイプ
(ベアリング
見たいな物)
4
3
10 押当板